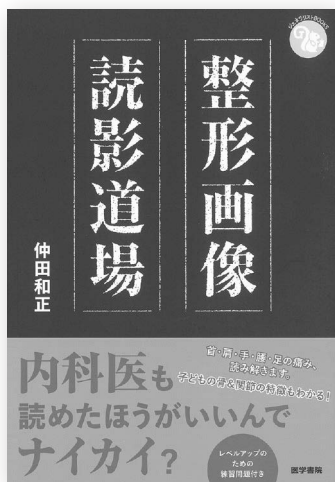




《ジェネラリスト BOOKS》 整形画像読影道場

仲田和正＝著

定価：本体 3,600 円＋税
A5・164 頁／医学書院／2019
[ISBN978-4-260-03833-1]

まるでアトラクション巡り!? 読影道場という遊園地

評者 平島 修 徳洲会奄美ブロック総合診療研修センター

思わず一気に読みしてしまった。

私が仲田和正先生（の本）に出会ったのは 15 年前医師になってすぐの研修医時代。年間 1 万台の救急搬送を受け入れる研修病院の救急室で週に 2 回の当直業務をこなしていた時に、同僚の研修医が「とてもわかりやすい本が出た!」と騒いで持ってきた。当時、整形外科学といった堅い医学の本はあっても臨床現場との乖離があり、実践で活かせる本はほとんどなく、仲田先生の著書『手・足・腰診療スキルアップ』（シーピーアール、2004）は、これまでの医学書作法の常識をひっくり返すような明快でユーモアに富んだ本だった。なかでも、漫画『おそ松くん』に登場するイヤミがシェーのポーズをしたイラストを用いた、アキレス腱断裂の解説は 15 年経った今でも頭を離れない。

そして 15 年の歳月を経て、『整形画像読影道場』という新しい仲田ワールドが帰ってきた。「読影道場」だが、首・肩・手・腰・足と全身の画像所見についてユーモラスに解説された内容は、遊園地のアトラクションを巡っているようなワクワクした気持ちになる。もちろん、アトラクション（章）を順に回るのはではなく、好きなアトラクションから入る（読む）こともできる。

特に救急外来で外傷を担当する医師には、かなり力になるのではないだろうか。外傷→診察→X 線という流れは整形外科医よりも救急・総合診療医が経験することが多い。しかし整形外科医ではないので手術まで関わることはなく、整形外科医に診てもらうべきか、診てもらう場合、すぐになのか翌日なのか、という判断が一番気になるのではないだろうか。膨大な疾患に対応する救急・総合診療医は、全身の骨折の細かい分類や具体的な手術の内容はさほど必要ではない。それよりは、見逃しやすい骨折や、軽度の骨折でも専門医受診が必要なものを覚えて、必要に応じて成書にアクセスできる環境が現実的なのではないだろうか（私はそうしている）。本書は、全身の骨や関節、神経分布などが簡潔にまとめられており、2～3 時間もあれば読み終えることができる。

本書には、他書には真似できない 3 つの特色がある。①仲田先生ならではの例える技術。前著はおそ松くんだったが、今回はピカチュウに扮した仲田先生の顔写真が登場する。思わずプツと吹き出してしまうに違いない。とにかく明快に脳裏に刻まれ、一度読めば忘れない。②仲田和正先生という心優しいお医者さんの姿。変形性肩関節症の患者さんのミッドウェイ海戦でのエピソードが書かれたコラム（p.74）は、当時の映像が浮かぶような素晴らしい内容である。患者さんに寄り添いながら診療をされている仲田先生を垣間見ることができる。③怒涛の反復。これは、仲田先生がいつもおっしゃる格言である。覚えておいたほうがいい内容は、繰り返し同僚と呪文のように唱え続ける。各章の最後には「怒涛の反復」として覚えておくべき内容のみ、数行でまとめられており、すべてを読み終わったあとに、もう一度この部分だけ声に出して読んでみると、骨の随まで知識が染み込んでくる。そして道場から出ると、不思議と X 線画像をみるのが楽しみになる素晴らしい書籍である。

